

平成二十八年十一月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十四卷 第十一号 通卷七三二号

書 象



日本書道芸術協会

2016-11

巻頭言

目習い

副理事長 樋口 玄山

手。手と言えば手なのですが、手の内、手の者、火の手、山の手…、いろんな意味に使います。そして手習い。「手」は文字を表し、漢字を男手、仮名を女手と言ったのはよく知られています。手習いは習字のことでありました。

さて、「手習い」だけが言葉として表通りを歩いてきたのですが、実は習字には「目習い」もあります。「あの家系の人々は手の筋がいい」とか「小学校の担任の先生の板書がきれいだと子供はそれに染まる」とか言われます。いいものをいつも目にしていれば目が肥える訳です。知らず知らずに「目習い」をしていることになります。環境が字を

上達させるのです。しかし、家系にしろ担任の先生にしろ、これは偶然や幸運に頼るしかありません。でもしかし、そうではない環境にいる人にも今の時代、美術館があり、博物館があり、各種展覧会があります。世の中全体の環境が良くなっています。これを生かさなない手はありません。美術館に行きましよう。写真やテキストと違います。本物のいいものに出合えば感動します。そして余裕があれば、何がいいのか、どうして美しいのかを考えてみましょう。それが「目習い」になります。

「手習い」の技術はスポーツのトレーニングと同じように、ちょっと休めば後退しがちです。「たゆまず」が肝要です。一方、「目習い」で得られる書の鑑賞眼、書の心に後退はありません。一生ものになります。美術館に通いましよう。

そして、目指すは、上條先生の作品にある「心手相忘」の世界でしょうか。



上條信山先生書 色紙「心手相忘」



天高くして気清し

11月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

化度寺碑

上條信山先生書



王所咨。郭泰則

11月20日必着
出品券を貼付

- ・横画の方向を統一させて、引き締った線で書きたい。
- ・行の中心を通す。特に二行目。

- ・偏と旁などの部分のつり合いにも気を付けたい。





・筆先の弾力を意識して、大きく運筆する。
・起筆、収筆、転折に注意する。

「叔」

・点の大きさ、角度、間隔に気をつける。



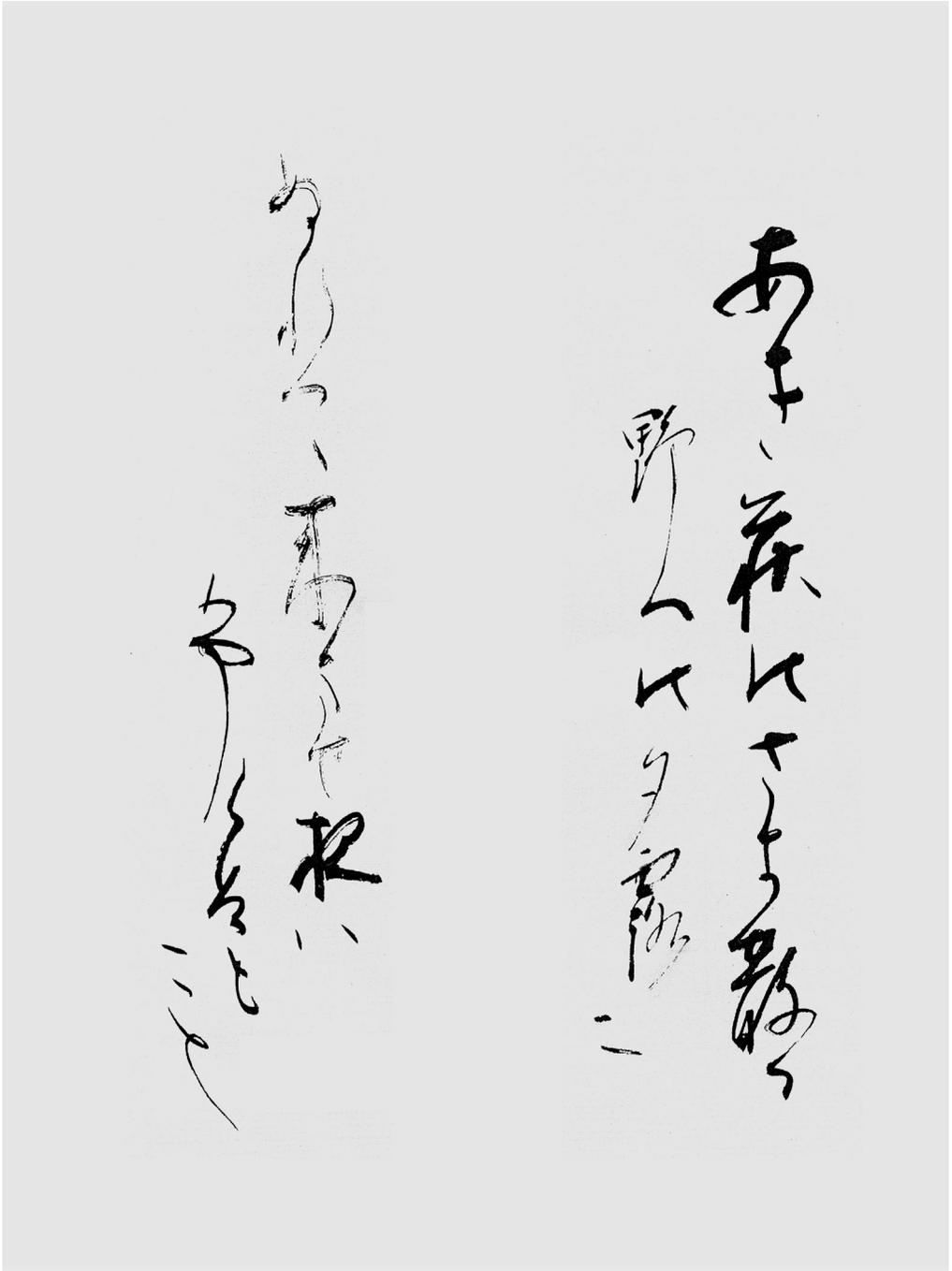
「乃」

・一画目の左払いが紙面中央から書き始める。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書



あき萩の（能）さき（支）散る野への（能）夕露に（二）
ぬれつつ来ま（万）せ夜は（八）ふ（布）け（介）ぬとも（毛）

（万葉集）

11月20日必着
出品券を貼付

・中央の空間をアクセントとした、左右二集団からなる構成。

・行頭、行末の位置に変化をつけ、紙面を広く使うのがポイント。

【散】

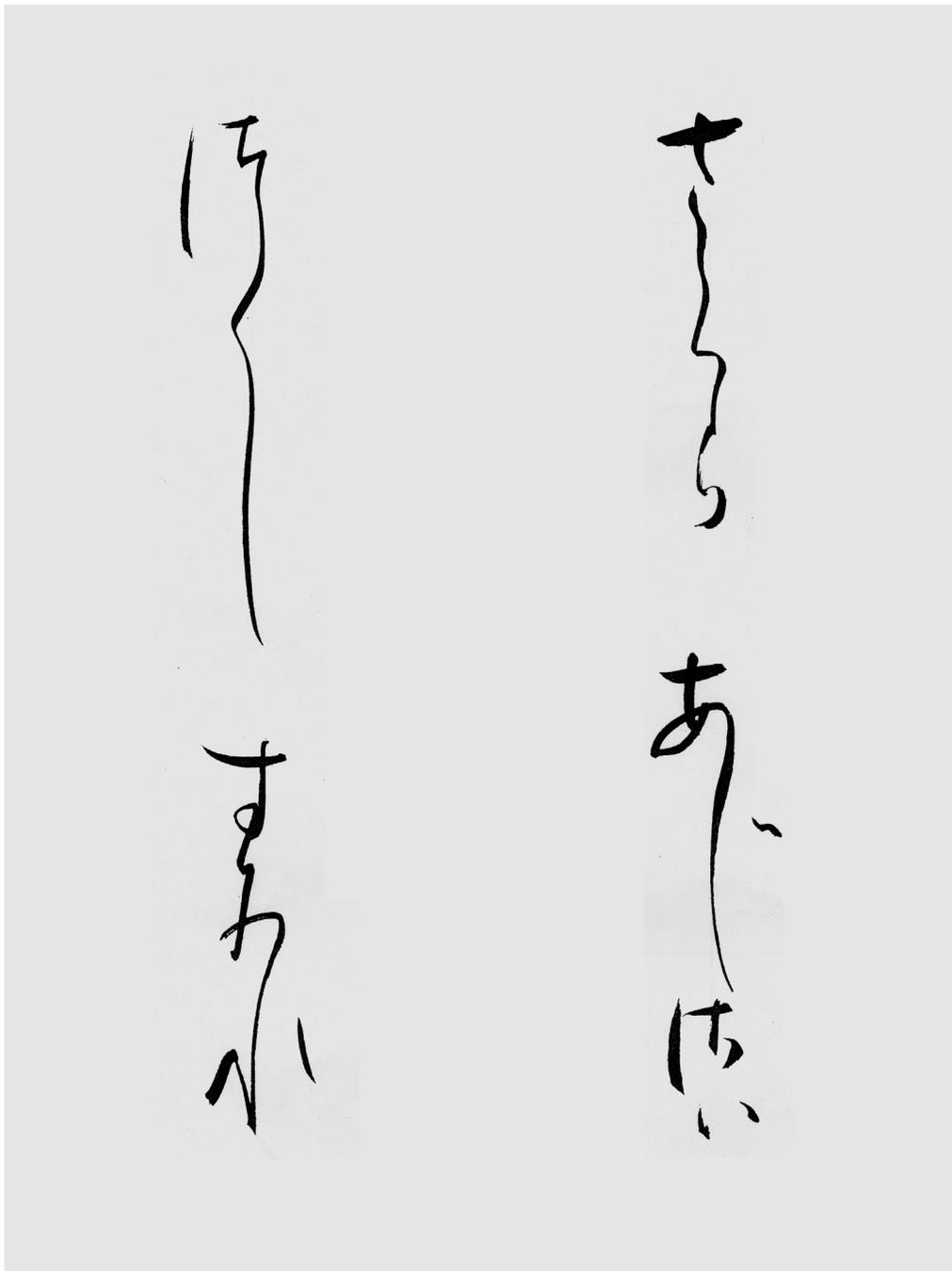
【野】

【露】

【来】

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



さくら あじさ(佐) いつくし すみれ

・中心となる線を書いて練習するとよい。

「さくら」



「あじさ(佐)」



「いつくし」



「すみれ」



研究【研究】

張猛龍碑

釈文（式て）英徽を（誕む）。高山は仰ぎ止め、



今月のポイント
逆筆を強く当てる。

・「英・徽」は異体字であるが原典に従う。
・写実か表現的臨書かどちらかを選び、美しい滲みによる屋漏痕の効果を狙ってほしい。

※屋漏痕：天井の雨漏りが広がるように瑞々しい滲みをいう。

写実的臨書

市澤静山先生書



表現的臨書（信山流）

虎井暁鐘先生書



※どちらか一体を出品してください。

11月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

風急猿嘯哀

風急猿嘯哀

- ・線の太細や偏旁の組み合わせ方を見落とさない。
- ・波磔が単調にならないよう工夫したい。
- ・「風急猿嘯哀」はP14参照。

調和体条幅随意【条隨】

内藤望山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

江路東ニ連ナレ千里ノ潮青雲北ニ望メバ
 紫微遙カナリ道ウ莫カレ巴陵湖水濶シト
 長沙ハ南畔更ニ蕭條タラン 賈至詩望山

江路東に連なる 千里の潮 青雲北に望めば紫微遙かなり
 道ウ莫かれ 巴陵 湖水濶シト 長沙は南畔 更に蕭條たらん(賈至詩)

- ・文字の大小、長短を意図的に表現する。
- ・墨つけの位置をはっきり、特に中央部はやや太め大きめに強く見せる。

晚靜
秋力
好

中学一年規定 【学毛】

樋口玄山先生書

豐作
今年
は

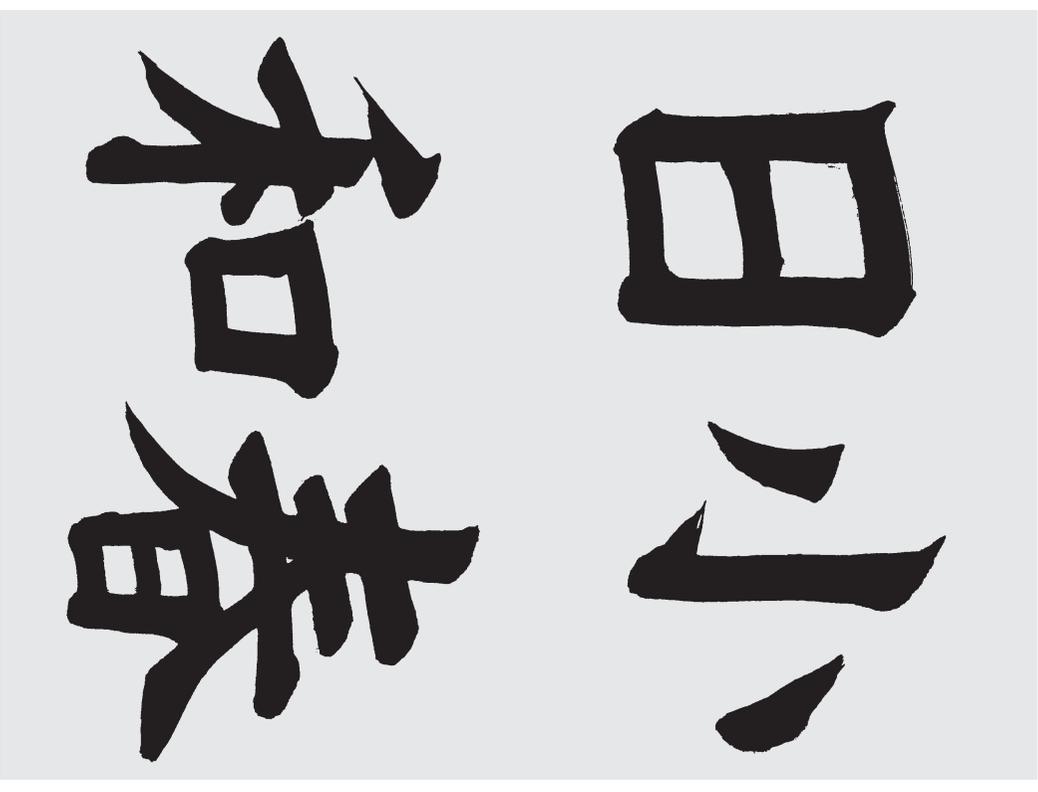
中学二・三年規定 【学毛】

田中節山先生書



小学五年規定 【学毛】

中村魏山先生書



小学六年規定 【学毛】

石丸曉風先生書

秋の暖かな日を春のようだという

心 方 心 背

小学三年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書

石 考 力 元

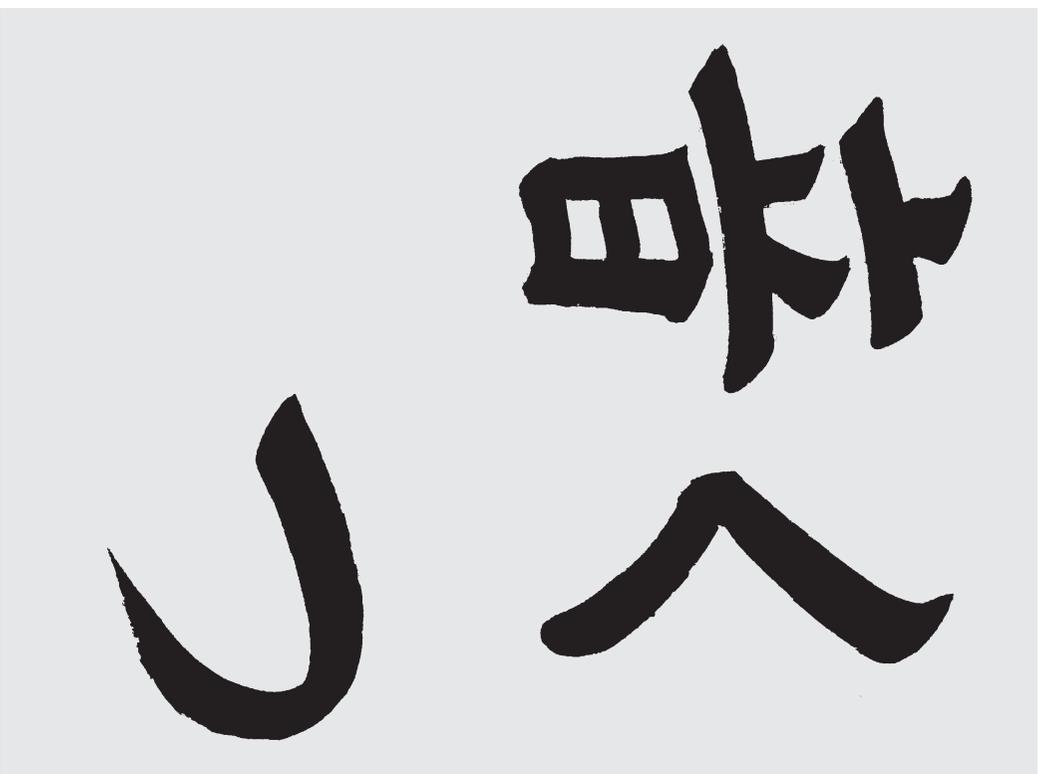
小学四年規定 【学毛】

小瀬石峯先生書



小学一年规定 【学毛】

柳澤玄藏先生書



小学二年规定 【学毛】

宋永晔華先生書

硬筆規定

一般規定【二硬】(師範・準師範・段位) 上條 信山 先生 書

颱(台)風十三号の(能)ごひが(可)い如何かとお案じ申し(志)上げとり急ぎ書中御見舞まで申し上げ(介)ます(春)

臨風十二号の(能)ごひが(可)い如何かとお案じ申し(志)上げとり急ぎ書中御見舞まで申し上げ(介)ます(春)

一般規定【一硬】(級位)

藤岡月華先生書

秋陣營の霜の色なまゆくりの
数みせしうら剣に照りそり
昔の光今いつこ

中学規定【学硬】

二瓶嶽風先生書

風に吹かれてふりそぐ落葉。
並木道には何かものさびしさを
を感じさせる。

支部 段級位
氏 名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小一・二年学	空	小三・四年学	近
小五・六年学	夕食	中学	準備

手本解説

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位) 「颱風」「如何」「見舞」は左図参照。

臨風十二号の(能)ごひが(可)い如何かとお案じ申し(志)上げとり急ぎ書中御見舞まで申し上げ(介)ます(春)

・隷書条幅随意「風急猿嘯哀」は左図参照。

風急猿嘯哀

学生部規定

今年は豊作

中学二・三年

静かな晩秋

中学一年

「今」の左右の払いが最大幅に。「年」は「一」画目の角度、横画の長短が重要。「は」は最後の結びの形に注意。「豊」の横画は平行に。最終画を長くして安定を図る。「作」は偏を小ぶりにまとめる。

「静」は横画の角度、間隔を揃え、偏旁の位置関係に注意。「か」「な」は筆脈を意識してリズムよく書く。「晩」は最後のはねの方向に気を付ける。「秋」は三つの払いの長短・角度に変化を

小学五・六年規定【学硬】

畑中高山先生書

美化委員会で決まったこ
とを、クラスの人たちに
発表します。

名前
支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】

西野江月先生書

雨が近いと言われている
いわし雲が、秋の空にう
かんでいます。

名前
支部 年 級段

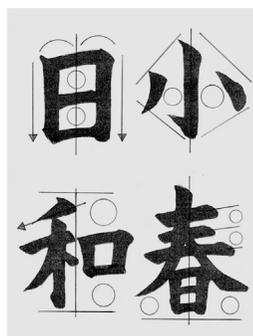
小学一・二年規定【学硬】

露崎玄峯先生書

つ	ス	赤
て	モ	と
い	ス	ん
る	の	ぼ
。	花	が
なまえ	に	白
支部	と	い
年	ま	こ
きゅう		

※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさ↓
たて18cmよこ7cm 小一・二課題↓2.1cmのマスキの紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



小学六年

「小」の字形は菱形をとり、左右対称を意識。「春」は横画の長短、払いの角度に気をつける。「日」は縦長に、「和」は下に出る。「和」は一画目の角度「口」の位置、大きさに注意する。



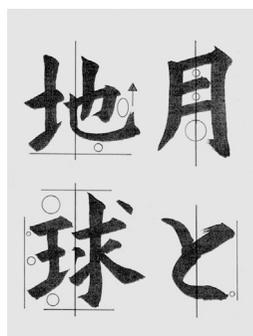
小学四年

「考」の三、四画目は長く、中央やや右で交わる。下部は右に寄せる。「え」は二等辺三角形を意識、折り返しを「はつきり」と。「る」は最初の横画と結びが中心。「力」の二画目は中央から始める。



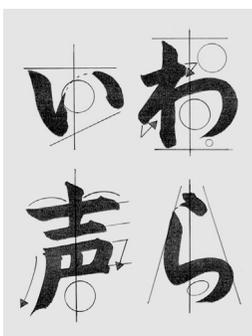
小学二年

「く」は連筆の方向、角度が大切。「つ」は右上がりに書き始め、曲がりの部分は速度をおとす。「音」は一画目を中心に。二、五画目のバランスに注意。



小学五年

「月」の一画目は立て気味に。内側の余白は下部を広く。「と」の二画目は斜めに筆脈を意識して。「地」の二画目は縦長、旁は横広。最終画は右に長く、「球」は偏旁の釣り合いに注意。



小学三年

「わ」は中心より左から書き始める。「ら」の一画目は中心に。「い」の二画目は線でバランスをとる。「声」の一画目は次画に向かってはねる。「声」は横画の角度を揃え、最終画は立て気味に。



小学一年

「あ」の二画目は中心線上にくるように。「三画目の大回りの線は、で軽く止める。」「お」の中心は一画目の終筆。大回りの線は横広を意識する。点の位置も注意。

古典研究シリーズ ㊦ 【古典】

こじゆのふ

枯樹賦 唐六三〇年

楮遂良 (五九六〜六五八年)

今月のテーマ

表現的臨書(B)

中字(二字〜六字)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字でなくても構いません。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
- (編集部)

表現的臨書

(B) 形に主観を加える

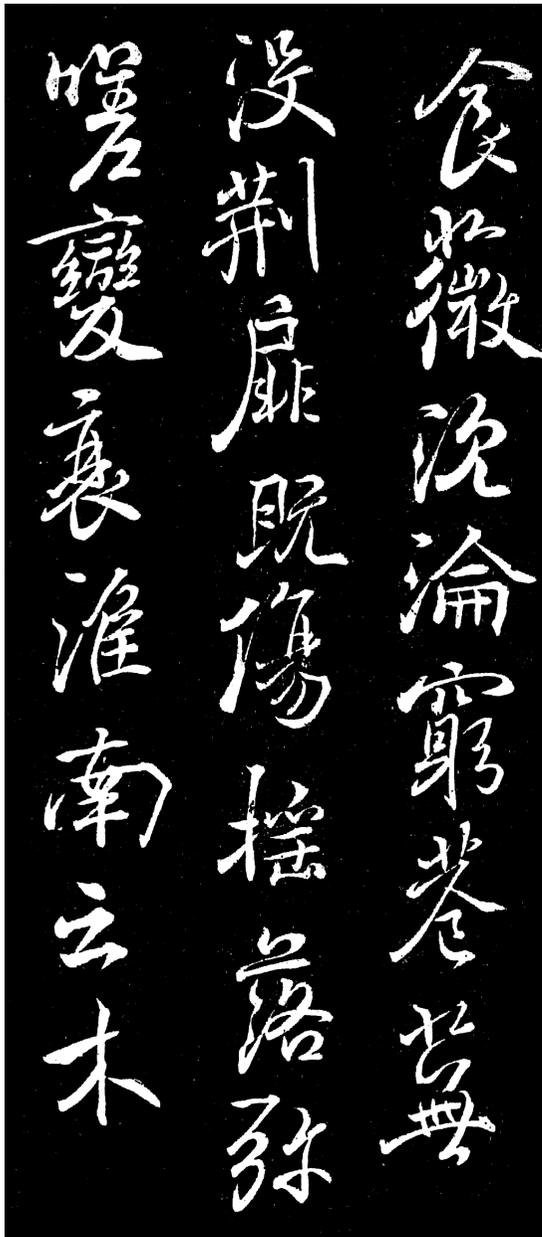
〈ねらい〉 古典の特質を失わない範囲で、出来るだけ形のデフォルメを行い、創作の香りの強い臨書をする。

〈学習①〉 対象古典の中から一字を選び、その特質を生かしたままで、思い切り縦長に強調してみる。次いで思い切り扁平に書いてみる。

〈学習②〉 次のねらいのもとに、対象古典の特質を生かして表現的臨書を試みる。

⑦ 頭部を大きく強調してみる ⑧ 下部を大きく強調してみる

〈学習③〉 さらに創作に近づけて、対象古典中の二〜六字ぐらいを、大小、長短等の全体構成をも考えて、表現的臨書Aの線表現をも駆使して、作品風の臨書を試みる。



〈釈文〉 食薇。沈淪窮巷。蕪没荆扉。既傷搖落。彌嗟變衰。淮南云。木

松本市美術館 便り

上條信山記念展示室 平成二十八年九月二十七日(火)〜平成二十九年一月九日(月祝)
 「上條信山50〜60代の書」

作家がどのような人生を歩み、年代ごとに作風がどう変遷したか等を知ることで、作品の見え方や鑑賞の深さも変わります。
 上條信山先生の書作を大別すると、30〜40歳代は書風の基盤となる古典に徹しつつ師風を追い、50〜60歳代はそこから脱却と、より自分らしい書を模索した年代。70歳代以降は代表作が多数生まれた円熟期と言えましょう。
 今回は、50〜60歳代に制作された作品を特集します。50歳頃から大字作品を発表し始め、60歳頃から篆書作品にも挑戦した年代。線も重厚さを増していった時期にあたります。一所に留まらず、新たな表現を追求し続けた作品の数々をご覧ください。

上條信山 記念展示室 展示作品

No.	作品名	制作年	年齢	寸法(cm)	主要展覧会
1	心高如山嶽	昭和36年(1961)頃	54歳頃	47.8×69.0	
2	湖心泛月	昭和38年(1963)	56歳	31.3×135.5	現日本書壇大家展
3	守清虚	昭和41年(1966)	59歳	159.0×57.5	第9回新日展
4	天下神器	昭和41年(1966)	59歳	33.5×130.8	
5	題華賦草	昭和43年(1968)	61歳	34.5×137.0	還暦個展
6	求深	昭和44年(1969)	62歳	67.9×105.3	第8回書象展
7	清入骨	昭和45年(1970)	63歳	69.0×234.3	第22回毎日書道展
8	自牧	昭和48年(1973)	66歳	65.8×68.6	毎日現代書展
9	張説詩五律二首	昭和51年(1976)	69歳	82.2×22.3	
10	不愧于天	昭和50年(1975)	68歳	62.0×69.0	日本の書展
11	山光照我	昭和51年(1976)	69歳	215.7×65.2	改組第8回日展
12	県歌「信濃の国」 歌碑(拓本)	昭和51年(1976)	69歳	103.1×233.7	
13	若竹像題字(拓本)	昭和38年(1963)	56歳	93.4×59.5	
14	李太白詩「月下獨酌」	昭和32年(1957)	50歳	168.0×67.0	第10回毎日書道展
15	柳宗元詩「登柳州城樓 寄漳汀封連四州」一節	昭和37年(1962)	55歳	135.4×34.4	第14回毎日書道展
16	不如守中	昭和39年(1964)	57歳	229.2×52.4	第7回新日展
17	魏徵詩「述懐」	昭和43年(1968)	61歳	134.6×34.3	還暦個展
18	自詠詩「挽屈原」	昭和43年(1968)	61歳	172.5×47.4	還暦個展



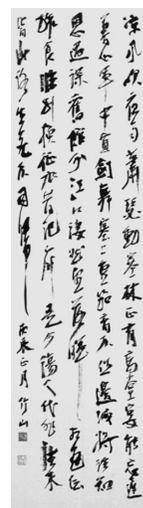
「山光照我」



「求深」



「天下神器」



「張説詩五律二首」

平成28年度 書象会 夏季合宿錬成会

期日 8月7日(日)～9日(火)、 会場 浜名湖ロイヤルホテル

(錬成グループ・指導の先生方(敬称略))

総合指導・・・市澤静山
半紙入門・・・露崎玄峯・柳澤玄嶽
書象展・・・中村巍山
条幅入門・・・二瓶嶽風
謙慎展A・・・虎井晁鐘
謙慎展B・・・樋口玄山・杉山晁雲・山口啓山
日 展・・・内藤望山・高田墨山・杉山晁雲・山口啓山
担当・・・宮本耕成・横田小泉

風光明媚な浜名湖畔に聳え立つリゾートタイプのホテルで実施しました。客室はツインが中心で、気の合う書友と同宿し、書の研鑽・向上に努めました。食事もバイキングが主で、おいしくただくことができました。各錬成グループより一名、ご感想を頂きましたので紹介します。

半紙入門

曉華支部 松島晴菜

小学生から書道を始め、今年大学に入学しました。これまでの書写力を鍛える書道に加えて、筆を運ぶスピードの変化による独特な線質や濃淡のじみ、印象に残る力強さなど表現力を磨く勉強

をしたい気持ちが強くなりました。広い視野で沢山の作品に触れ、もう一度自分の書を見直すため合宿に参加する決心をしました。半紙入門では信山流の基本である露鋒と蔵鋒について細かく丁寧に指導して頂きました。特に添削して頂いた箇所をメモしながら同じ文字を何度も練習しました。反復練習することで感覚を掴むだけでなく自分の癖や弱点を見つけたことが出来るので、基礎固めとして最適な練習だったと思います。その成果もあり、沢山の先生から「線質が良い」とお褒めの言葉を頂き、嬉しさと達成感を強く感じました。合宿の経験を生かし、表現力豊かで人の心に残るような書道を目指して進んでいきたいと思えます。ご



露鋒と蔵鋒について……

書象展

曉華支部 栗田喜久男

指導頂いた先生方、本当に有り難うございました。夏季合宿に参加して感じたことは、諸先生方の熱心かつ親切なご指導に呼応して、受講者の皆さん静粛な中にも、熱気溢れる集中力に圧倒されたことです。七十余年の人生、書を始めて八年、支部での一日錬成は何度かありましたが、今回の合宿スケジュールを見て、今現在の自分から脱皮して、新たな前進に繋がればとの思いで会場に入りました。中村先生の朗らかで飾らない人柄に好感をもちました。

お手本を書かれる時の先生の筆の持ち方、運筆の強弱、スピード、腕の運び方等、直接ご指導を頂きました。今までは趣味



作品の効果的な作り方とは……

の中の自分研きとして、書を楽しんできましたが、これからは正師範を目標にして精進してまいります。今回の合宿は大きな刺激と感動の三日間でした。諸先生方の御指導、誠に有り難うございました。

条幅入門

有象会支部 武田基秀

合宿に参加するのは三回目です。何よりの楽しみで、万障繰り合わせて参加しています。今回は、二瓶先生のご指導のもと、条幅入門に挑戦しました。条幅は全く書いたことがなかったので、先生も初めは心配されていた様子でしたが、優しく心に入りやすいお話振りのご指導や周りの皆さんへの練習の様子を見たりしながら、お陰様でどうにか形になってきました。信山流の魅力は線の勢いだと思います。もっと勉強してみたいと思うようになりました。

時折、他の先生方がお見えになり色々のご指導くださり好感が持てました。更に、信山流の貴重な拓本を目にすることができ勉強になりました。合宿ならではの醍醐味です

最後に、同室の方は先生も滅多にお教えにならない先生ご自身が習得されたコツを教えてくださいました。

先生、今度私にも教えてください。



細部にわたる添削指導が一人一人に

素敵で明るい浜松での合宿、来年が楽しみです。先生方、係担当の方、参加された皆様に感謝申し上げます。

謙慎展 A

長野支部 手塚恵心

本部の先生方にお会いできることや、どの先生が担当なさるのが楽しみで毎年参加させていたでいております。また、参加されている方々に一年振りにお会いできるのも楽しみです。今年参加した部門は四名で、虎井曉鐘先生の細やかなご指導を受けることができました。先生の視線を感じながら適度な緊張の中で勉強できたことは貴重な体験でした。見ていてくださることで、気がついたところをすぐ教えていただけるという特別な環境と安心感がありました。先生は参加者の様々な疑問・質問にその都度丁寧に答えてくださり、作品作りの参考となりました。更に、筆や墨などの用具選びも併せて学ばせていただきました。



来年の謙慎展は大いに期待できそうです

作品鑑賞会では、各部門の方々の素晴らしい作品を目の当たりして「日々の研鑽」を怠ってほならないということを改めて感じました。ご指導頂きました先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。有り難うございました。

謙慎展 B

若竹会支部 松村恭月

今年の合宿は、浜松市「浜名湖ロイヤルホテル」で行われました。リゾートホテルの眺めの良い大きな錬成会場での開会式。先生方がずらりと並べると、その迫力に身の引き締まる思いでした。

謙慎展Bの会場では、日比野汀華先生の制作過程を拝見し、創作というのを見て感無量でした。また、日比野先生の筆で試し書きをさせていただき、紙に吸い付く様な今までにない感覚を体験しました。更に、樋口玄山先生、山口啓山先生、杉山曉雲先生からは丁寧に指導頂き、新たな発見と沢山の学びがありました。

錬成後は豪華な食事と温泉



さあ、錬成開始！心が引き締まります

で癒やされ、二日目の宴会ではビンゴ大会で盛り上がり、全国から集まった方々と接する事ができる合宿は私にとって財産です。

学んだ数々の事を今後の作品制作と生徒指導に繋げてゆきたいです。

日展

大衆会支部 佐藤京香

二年振り二回目となった日展部門への参加です。明るく広々とした会場では、開会式後すぐに総合添削があり、あっという間に緊張感が広がりました。二つの題

材の選択に迷っていた事、サイズの変更もあり不安を抱えてのスタートでしたが、最初の添削会で方向性を決めていただけ

たことは重要なポイントでした。

会場に目を移せば先生方、先輩方の書かれる姿を間近で拝見できます。執筆法、運筆法、リズムや息遣いまで感じ取り、学べる事が合宿の神髄と再認識できました。



来月の日展最終選考に向けて緊張感が漂う



宿泊・錬成したホテル



開会式、市澤理事長挨拶



錬成の疲れも解消？



たくさんの料理、次々とお皿へ

今回は、初日がリオオリンピック二日目と重なりました。休憩時間に日本選手のメダル獲得やイチロー選手の三千本安打達成の速報が伝えられ、会場の意気込みは更に高まります。周囲の高揚感の中で仕上げられた作品は集中して書け、今後に繋げられる予感の持てるものでした。ご指導下さいました先生方、細部への心配りをして下さったスタッフの先生方に深く感謝を申し上げます。

夏季合宿スナップ



ビンゴゲーム、揃わないなあ～



ホテルから弁天島方面を望む

夏季合宿を終えて

合宿担当 宮本 耕成

錬成会場の窓から見下ろすと、浜名湖が広がる風光明媚な環境の中の夏合宿でした。参加された皆様一人一人がこの合宿の意義をよく理解され、『何かを習得しよう』という高い意識で錬成に励まれている様子が感じられました。

そして、指導にあられた先生方が懇切丁寧にアドバイスをされ、張り詰めた空気と熱気が伝わってきました。参加された皆様は『多くのお土産(収穫)』をお持ち帰りいただいたのではないかと思います。

係としては今回の合宿の反省会を行い、来年度に向けてよりよい合宿・研修会を検討してまいりたいと思っております。ご意見、ご要望がございましたら是非、お寄せいただきますようお願いいたします。

第五十七回全日本書写書道教育研究会全国大会(埼玉大会)報告

大会主題 「書字文化を育む書写書道教育」

会 期 平成二十八年八月二十六日
会 場 文教大学(埼玉県越谷市南萩島)

本年度の大会は場所を文教大学とし、本会荻田哲男(光山)先生が上條信山先生以来となる大会事務局運営委員長の重任を引き受けられて行われた。全国大会開催に当たり理事長の長野秀章先生(東京学芸大学名誉教授)が挨拶され、今大会の運営委員長荻田先生からは「文字を書くことの大切さ、学ぶことの意味」についてのお話があった。来賓祝辞は大会講師である文科省初等中等教育局の加藤泰弘先生(教育課教科調査官)が務められた。

研究協議会では、始めに小学校部会報告として「小学校低学年毛筆(軟筆)導入研究授業報告」、次に中学校部会報告として「中学校国語科書写の学習指導における生徒・指導者の意識及び実態調査報告」があった。



荻田光山先生(大会事務局運営委員長)の挨拶



熱心に聞く参加者

長崎県の佐世保市立佐世保小学校の「水書きの可能性」の報告は、「硬筆↓水書ペン↓硬筆」という進め方で児童が興味関心を持ち、筆圧や鉛筆の持ち方が向上し、楽しく学ぶ中で意欲が増したというものであった。さいたま市立三室小学校でも「毛筆(軟筆)指導・導入」をテーマに水書ペンを使用して新出漢字やひらがなの練習後に硬筆作品を書く授業の成果が報告された。中学校部会の「中学校国語科の学習指導における生徒・指導者の意識及び実態調査」の報告では、今後の課題と提言が示された。

シンポジウムは、「これからの書写書道教育と学習指導要領改訂をにらんで」と題し、山梨大学大学院教授の宮澤正明先生(国語ワーキング)と長野秀章先生(芸術ワーキング)から改訂作業進行中の学習指導要領の方向性についてのお話を聞くことが出来た。現場の実践と研究、一連の発表を取りまとめるシンポジウムと内容の濃い一日であった。

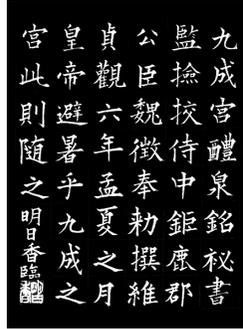
(露崎玄峯記)

第48回
全国学生書道展
優秀作品の発表

信山先生記念賞



齊藤 実里 (八潮)



多田明日香(聖徳大附女高)



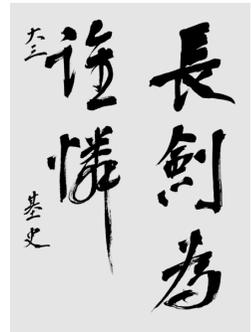
松山 惟香 (守山北高)



望月みなみ(丸子修学館高)



飯島 知代(聖徳大附女高)



小島 基史 (華雪)

日本書道芸術協会大賞



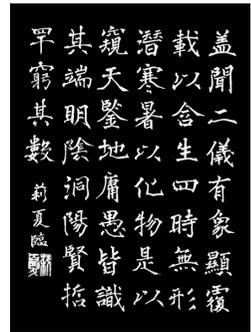
千葉 月美 (光ヶ丘)



土屋 璃乃 (若竹)



平田 早穂(聖徳大附女中)



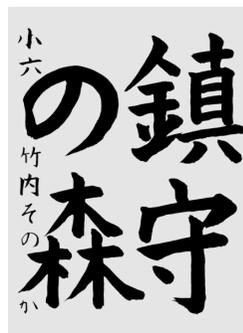
安原 莉夏(聖徳大附女高)



酒井ひろみ (芙蓉会二)



吉井 理紗 (和)



竹内そのか (たけのこ)



戸田 陽菜 (静翠)

日本書道芸術協会準大賞

美人董
氏墓誌

鳩山七海
(守山北高)

靡恃己
長信使

加藤穂乃香
(玄模会)

刃慶流
長世分

井原咲依
(土筆)

大司農
給米祠

石渡 凜
(聖徳大附女高)

天地玄黄宇宙洪荒日
月盈昃辰宿列张寒来
暑往秋收冬藏閏餘成
歲律召調陽雲騰致雨
露結為霜金生釐水玉
出崑崙劍雍 志織

平田志織
(丸子修学館高)

静かな
山の朝

中村聖奈
(聖徳大附中)

理想の
実現

渡邊 琳
(名東)

独創的
な美

有泉咲希
(有象会)

東越
青丘

柴平留奈
(蓼科高校)

之盛一
觴一詠

小柳水希
(李光)

太古の
物語

岩佐夏妃
(凜心)

温故
知新

井澤志保
(聖徳大附女中)

宇宙の
神秘

山下侑華
(華雪)

栄光の
架橋

若山駿仁
(華雪)

日本の
文化

古賀大雅
(光ヶ丘)

理想と
信念

樋口佳南
(湊)

の世界
の海

清水栄花
(光ヶ丘)

山の寺
の夏

山畑愛菜
(練馬)

石坂の
道

河合野乃
(龍文)

南十
字星

小林琉月
(竹華)

広大な
草原

大角地麻璃香
(上尾)

涼風を
追う

長谷川舞香
(上尾)



りこ
お

宮川友花
(平成)

氷
ふきし

牧野莉子
(凜心)

流
る雲れ

菊地あられ
(富貴会)

信守
号れ

藤本ひなの
(汀楓)

全日本書道連盟奨励賞

花 落 地
生 香

泉さらら
(玄樸会)

衰 成 疾
四 時 来

酒井秀翔
(光ヶ丘)

智通無累神剛志形
超六塵而迫出佳千
古而無對擬心内境
慧正法之陵 雲美

川島亜祐美
(太田女子高校)

大 司 農
給 米 祠

高島 雅
(聖徳大附女高)

文 德 懐
遠 人 東

瀬田萌絵
(光丘高)

澄 懐 道
味 長

大川めぐみ
(華雪)

新 聞 に
載 入

小林莉奈
(柏心)

自 由 と
平 和

五藤耀子
(有穂)

崇 山 峻
領 茂 林

酒井彩帆
(聖徳大附女高)

山 光 清
眼 界

齐木祐菜
(華雪)

鳥 倦 飛
而 知 還

池上恵美
(富貴会)

觀 宇 宙
之 大 俯

宮下美羽
(聖)

古 代
文 明

奥野澄玲
(山愛)

秋 晴 れ
遠 い 峰

山田純寧
(名東)

発 芽

浜田郁南
(城彩)

富 士
山 頂 士

松本茉奈
(美菜会)

永 和 九
年 歳 在

横倉 源
(秀雪)

自 由 と
平 和

吉池愛来
(柏心)

岩 打
つ 波

成瀬明日花
(杉)

文 明
の 光 明

佐生美空
(好野)

南 十
字 星

宍戸優空
(竹華)

温 故
知 新

関野らら
(千曲)

言 語
表 現

小西理紗
(虹苑)

太 平 洋
の 波

北川陽菜
(竹華)

か に

宿谷はやて
(硯)

雨 云

三上希果
(倭)

玉 手
ば こ

坂本陽平
(たけのこ)

玉 手
ば こ

中本美咲
(皓花)

夕 空 や
け

滝田莉乃
(光ヶ丘)

平 和
の 灯

茂呂和奏
(伊奈)

第48回全国学生書道展特集 — 受賞者の喜びの声 —

第48回全国学生書道展を終えて

学生展担当 江上玄光

今年も各支部長先生方の懇切丁寧なご指導とご協力により、全国から熱意溢れる力作が集まりました。厚く御礼申し上げます。厳しい審査の中、応募作品の一点二点からは、学生展にかける子供達の意気込みや、日頃の真剣な学習の積み重ねが感じられました。

皆さんの努力が実を結び、今後さらに発展していくことを祈念しております。

また、今回の優秀作品は、来年六月に国立新美術館で開催予定の書象展会場において、本年同様の展示をいたします。ご期待下さい。

信山先生記念賞

欧陽詢に惹かれて

聖徳大学附属女子高

高二 多田明日香



欧陽詢の整正楷書に惹かれ全臨を目指している中の出品でしたが、このような素晴らしい賞に結びついたことに大変驚いております。これを励みに自分を支えてくださる方々に感謝し、今後更なる上達を目指して取り組んでまいります。

記念賞を受賞して

八潮

中三 齊藤 実里



この度はこのような素晴らしい賞を頂くことが出来、大変嬉しい気持ちでいっぱいです。

す。これを励みにこれからも精進していきます。ありがとうございます。

日本書道芸術協会大賞

感謝

華雪

大三 小島 基史



この度は大賞という素晴らしい賞を頂いたことを嬉しく思います。今まで御指導して頂いた先生方に感謝し、これからも精進していきたいと思っております。

積み重ねの成果

聖徳大学附属女子高

高三 飯島 知代



今回大賞という名誉な賞をいただきとても嬉しく思います。毎日の書の練習に積み重ねの成果を実感いたしました。これを励みにこれからも努力し書の学習を継続して学んでいきたいと思っております。

驚!!

丸子修学館

高三 望月みなみ



今回、このような賞をいただき恐悅至極に存じます。顧問の竹内先生を始め、周りの方々のお陰と深く感謝しております。これからも精進してまいります。

感謝

守山北高等学校

高二 松山 惟香



初心者で書道部に入りました。一年生では楷書を書いていて、二年生から隷書を頑

張りしました。大きな賞を頂けて、大変嬉しいです。ありがとうございます。

臨書学習の成果

聖徳大学附属女子高

高一 安原 莉夏



今回このような素晴らしい賞をいただき、「毎日の臨書学習の成果が実ったのだ」ととても嬉しく思いました。これからも今回の受賞を励みに何事にも頑張っていきたいと思っております。

大賞をいただいて

聖徳大学附属女子中

中三 平田 早穂



この度は日本書道芸術協会大賞をいただき嬉しく思います。平仮名と漢字のバランスに苦労しましたが、先生のご指導により最後は納得のいく字がかけました。これからも頑張って書道を続けていこうと思っております、ありがとうございます。

大賞をいただいて

若竹

中一 土屋 璃乃



先生から大賞受賞を聞いたときは驚きました。ご指導してくださった先生に感謝しています。これから、もっと努力して良い賞をとれるように頑張ります。

稽古に励む

光ヶ丘

中一 千葉 月美



今回、日本書道芸術協会大賞を受賞して驚くと共にとても嬉しかったです。この賞

をきっかけに、剣道と書道をより一層頑張りたいと思っております。

感激

静翠支部

小六 戸田 陽菜



今回、このような素晴らしい賞を受賞させて頂き、ありがとうございます。本当に驚きました。これからも、両親や先生への感謝を忘れずに、がんばります。

がんばってよかった

たけのこ

小六 竹内そのか



今回こんなにいい賞を頂いてとても嬉しいです。保育園の頃から約九年間続けてきました。これからはもっといい字を書けるようになりたいです。

感謝

和

小六 吉井 理紗



今回、大賞を受賞できたことを光栄に思います。五年生から部活動で休みがちになりましたが、ここまでこれたのは先生のおかげです。ありがとうございます。

ヤッター

芙蓉会二

小四 酒井 裕美



二学期が始まってすぐに、私あてに電報がときました。なんだろうと思って、開けてみると、書道で何か受賞したことが書いてありました。めっちゃうれい!

武田紅春さんの 卒寿記念作品集『無量寿』の刊行を祝う

会長 田中 節山

審査会員の武田紅春さんが、めでたく卒寿を迎えられました。現役として活躍中です。

昭和三十九年ごろ、吉祥寺の産経学園の信山教室での勉強を経て、信山先生のご自宅に通われて土曜会での教えを受けて来られました。

このたび、その折に出品し続けた作品群の中から一二点を、愛娘である黒河真理子さんの応援のもと、見事な作品集



180×70cm 劉基詩



『無量寿』が刊行されました。まことにお目出度うございます。素晴らしい学習の成果です。中でも、ここに掲げるような謙慎展や読売展に出品された大型作品は、力強い作品ばかりで圧倒されます。篆・隸・楷・行・草書、調和体、仮名なども信山先生の技法をよく修得されています。

主な出品展は、書象展、書象選抜展、書象女流十二人展、土曜会展、日本女流書展、日本の書展、読売展、毎日展、謙慎書道展など数えきれません。

更に出品を続けたいと話されています。さらなる御長寿とよい作品を期待しています。

第28回さざ波会書展

会期 八月二十三日(火)
二十八日(日)
会場 こみなと稲毛ギャラリー
主宰 池上湖心先生

暦の上では秋の訪れとなったものの、残暑厳しい八月の下旬に第二十八回さざなみ会書展を『こみなと稲毛ギャラリー』にて開催いたしました。

今回の書展は、古典の臨書を含め、楷書、行書、篆書、篆書、仮名などに加え、出品者全員によるそれぞれ寸松庵の大きさの「いろは」を掛け軸に表装して会場に華を添え、来場された方々の注目を集めていました。また、小中学生による力強く伸びやかな作品は、見る者を元気づけてくれました。会場には、書象会、土曜会の先生方や書道関係者の皆様をはじめ、会場前案内を見て訪れてくださった方々などおよそ三百名近い方々にご来場いただき、作品の一つ一つに熱い視線を向けていただきました。

作品をご覧いただいた方々の激励を胸に、今後もより一層練習に励み、次の開催を目指して行きたいと思っております。

(井上葉楓記)



会場風景



池上先生と出品者一同

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



毛筆につづいて

志摩支部 中三

三橋 聡香

毛筆につづいて、硬筆も特待生になることができ、とてもうれしく思います。また、今回はいごとと一緒に昇格することができ、書道の楽しさがよく分かってきました。これからも上を目指してがんばります。支部長先生より一言 聡香さん、二度目の合格おめでとう。この努力はこれからの生き方にきつと生かされてくる事でしょう。

感謝

有象支部 中三

百合田 清仁

目標としていた特待生に、毛筆に続き硬筆もなることができとても嬉しいです。これは全ていつも優しく丁寧に指導して下さいました先生のおかげです。ありがとうございます。これからも更に頑張っていきたいと思えます。支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。よくやっただけで自宅を書くことも多かったですが、この努力嬉し

ゼロからのスタート

柏心支部 中三

小林 莉奈

小三から習い始めた書道。左利きの私にとって、右手で字を書くという事はゼロからのスタートでしたが、先生の熱心な御指導と応援してくれた家族のおかげで、今回特待生になることが出来ました。本当に感謝です!! 支部長先生より一言 おめでとう。本当によく頑張りました。何事も「なせば成る」だね。今後更に上を目指して続けましょう。



念願の特待生

珠悠支部 中三

丸口 莉未

今回、念願の特待生になれてすごく嬉しいです。これまでこれたのは、先生や家族の支えがあったからだと思っています。ほんとうに感謝でいっぱいです。これからも日々努力をして頑張っていこうと思います。支部長先生より一言 進路や特待生試験を目前にし、物事に一層真剣に取り組むようになってきました。これからも持ち前のガッツで頑張ってください。

続けてきた書道

有象支部 中三

有泉 咲希

今回で、毛筆も硬筆も特待生になれて、とても嬉しいです。中学生になってからいそがしくなり、中々お稽古に行けなくなる事もありましたが、小二の時からずっと続けてきて良かったと思えました。支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。この一朝一夕に出来ない努力が実を結んだこと、本当に良かったです。

憧れ

さざなみ支部 中二

中島 万智

ずっと憧れだった特待生になることができてとても嬉しいです。いつも熱心に指導して下さいました先生には感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございます。これからも目標を持って上達していきたいです。支部長先生より一言 特待生おめでとう。部活と塾と大変ですがよく頑張っています。妹と弟のお姉さん更に書に励みましょう。



特待生になって

桜木支部 中三

竹田 奏恵

私は小学校一年生から習字を習い始めて、やっとのことで、特待生になれて、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。今までも支えて下さった親や先生に感謝しています。これからも、美しい字を目指して頑張ります。支部長先生より一言 特待生試験に合格、おめでとう。継続は力なり、今後の活躍を願っています。

特待生への道のり

須坂支部 中二

松本 那奈子

特待生の道のりは順風満帆ではありませんでした。しかし、諦めずに続ける事ができたのも、先生や家族の励ましがあってからです。本当にありがとうございます。次は二冠達成に向けて、更に努力していきたいです。支部長先生より一言 毛筆合格おめでとう。ほとんど休まず、黙々と納得いくまで努力する姿勢は皆のお手本です。頑張ろうね!

変わったこと

竹華支部 中三

黒澤 櫻

合格の知らせを聞いた時、嬉しさと共に驚きもありました。自分の字に自信がなかったからです。これを機に少しずつ自信を持つようになりました。これも教えて下さった先生のおかげです。ありがとうございます。支部長先生より一言 書に取り組む姿勢は教室の模範でありました。晴れて初挑戦で合格、高校生活も頑張ってください。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



うれしい！

若竹支部 中三

小山田 未怜

私は中二のときに一度おちてしまっ、くやしい思いをしました。字を書くのもいやになってしまいう程でしたが、先生のご指導により今回合格することが出来ました。すぐくうれしかったです。
支部長先生より一言 つらいこと、かなしいことを乗り越えて合格したことはきつと将来、良い経験として役に立ちますよ。

特待生

高社支部 中二

松田 七海

私は小学一年生から習字を始めて、今年特待生になる事ができました。長く続けてきてこうして一つの目標を達成することができてとても嬉しいです。これからも毛筆でも特待生になれるように努力していきたいです。
支部長先生より一言 勉強に部活にその他の習い事に、忙しい中これまで良く頑張りました。二冠達成を応援しています。

特待生になって

芙蓉五支部 中三

小松 莉子

私は小学校低学年から書道を始めました。今まで、上手に書けなかったり、やめたいと思った事もありましたが、最後には毛筆で特待生になれたので嬉しかったです。硬筆も特待生になれるよう頑張りたいです。
支部長先生より一言 学校帰りによく頑張りました。これからの日々何事もやれば出来ると言う自信になりましたね。

感謝

霞墨支部 中二

吉川 愛美

私は小学校三年生の時から書道を始め、特待生になることができました。部活との両立が大変だったけれど、ここまでやってくることができたのは先生方のおかげです。ありがとうございます。
支部長先生より一言 テニス部の部長もやっていて、大変なようです。遅くまで書いていた姿は、立派です。おめでとう。

努力

練馬支部 中三

白澤 麻佑

私は小学三年生から書道を習い始めました。努力を積み重ね、やっと特待生になることができました。それも、今までも一緒に稽古してきた友達や先生のおかげだと思います。
支部長先生より一言 支部初の特待生おめでとう。休むことなく努力する姿は、後に続く後輩達の良い手本であり目標です。

やっととれた特待生

名東支部 中三

菊地 絵莉香

幼稚園から始めた習字。辞めたいと思う事もあったけど、指導してくださった先生のおかげでやっと特待生になる事ができました。小さい頃からの夢だった特待生になれてとても嬉しいです。諦めずに続けて良かったです。
支部長先生より一言 硬筆特待生合格おめでとう。テニス部で汗だくの帰りに休まず通った芯の強さ、今後も期待しています。

達成

久喜支部 中二

藤澤 ことば

小三から、姉を追って書道を習い続け、目標の特待生になることができ、とても嬉しいです。御指導してくださいました先生に、感謝でいっぱいです。今後更なる上達を目指して頑張りますのでよろしくお願いたします。
支部長先生より一言 おめでとうノ学業又部活で忙しい中、努力が実を結びました。ことばさんの今後の活躍に期待します。

日々の精進

志摩支部 中二

西村 寧々

積み重ねた努力や熱意のこもった先生のご指導がようやく実り、『特待生』に昇格できたことを嬉しく感じます。今後もより一層毛筆、硬筆ともに日々精進を重ねていきたいと思えます。
支部長先生より一言 寧々さん、硬筆合格おめでとう。忙しい中学生生活、趣味の踊りのお稽古もある中でよく頑張りました。

悲願

月支部 中二

神崎 沙和

毛筆に続き硬筆も特待生になれて本当にうれしいです。私は硬筆が苦手、受かるかどうか心配でした。しかし、先生のおかげで二冠達成できました。これからも頑張っていきたいです。ありがとうございます。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。部活と両立しながらよくがんばったね。今度はぜひ師範をめざしてね!!

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

霞墨支部

小六 塩野 哲也



教室内で、いつも、いろいろと手伝ってくれるやさしい生徒です。考え方もしっかりしていてすばらしいですよ。細かい作業もこなすマッルチな所すごいです。

一絵支部

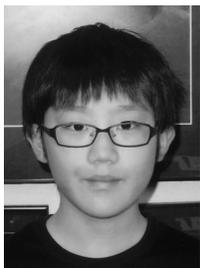
小四 薄井 香花



春風のような香花ちゃんですが、書く字は強くたくましく期待の星です。沢山のお稽古も見事にこなした学校の成績も優秀。脱帽です。

若竹支部

小六 青木 康太



康太君は今年で五年目。下級生の面倒見が良い人気者です。この頃は自信がついて作品も太く堂々としていきます。勉強態度も落ちて立派です。

神奈川支部

小五 内野 有彩



左利きですが、一年生から右手でお稽古を始め、努力して鋭い始筆や力強いハネを習得しました。手芸や料理が好きで、パティエを夢みる明るいお嬢さんです。

虹苑支部

小五 樋屋 雄大



素直で話をよく聞き筆使いも丁寧で集中力が抜群です。市の書展に学校代表で小一から連続選抜。教室のお手本です。送り迎えのお母さんに感謝します。

曉華支部

小六 中島 茉央



茉央さんは一年生の二月に入会し、当時から物事にイエス・ノーとはっきり言える志を持っていて。書にとり組む姿勢と腕前に優れ、将来を期待している。

北府支部

小六 堤 大輔



小一からお習字を始めました。いつも大好きなサッカーや将来の夢など楽しく話してくれそうです。その笑顔と持ち前の集中力で、これからも頑張ってください。

蔵支部

中二 奥原 亜美



おとなしく物静かな亜美さん、黙々と一生懸命書いてます。書道を習い始めたのが遅かったのですが、めきめき上達し力強くきれいな字が書けてます。

高社支部

中二 駒津 大翔



小学生の頃からサーカークラブに所属し現在は部活のキャプテン、地域の選抜選手でもあります。学業の成績も良く、書道では特待生を目指します。

玄嶽支部

小四 永沼 翔弥



翔弥君は、そろばんが得意で体育が大好きな野球少年。文字を書くことも大好きで、しっかりとした文字を書きます。特待生になれるといいね。

大泉支部

小六 重原 彩奈



やさしさとしつかりしたところが二人姉妹のお姉さん。一年生からはじめたけいこもまじめに取りくんできます。かわい笑顔でますます頑張ります。

美那支部

小六 鳥海 琴乃



小一の頃から習い始め今ではだいぶ腕を上げ真剣に取り組んでいます。三人姉妹で長女の琴乃さん。次女の日莉さん。良きライバルでもあります。



△隷書条幅▽ 評 高瀬 霞山

統 華 切れ味鋭く軽妙なりズムで中心線一貫。

香 窓 暢びやかな線質で、安定した字形。

峰 雪 豊潤な墨色で線質強くまとまっている。

泉 山 求心力のある形で全体がすっきりした。

賢 山 自在な筆遣いで緊張感のある作品。

琇 光 大胆な運筆で手本に忠実に書いてある。

勇 山 重厚な線と「河」の終面の線が見事。

皓 花 墨の滲みが印象的で落ちつきのある作品。

△仮名条幅随意▽ 評 田中 珠光

汀 楓 豊かな墨量でも軽快さを失なわない。

恵 香 左右の余白、行間の明るさ、全体感佳。

翠 花 潤濁の変化が美しく、流れに冴えあり。

△通信条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

青柳緑水 墨量豊かで線に冴えあり大佳。

三沢泰仙 線、形とも安定感を持ち、鍊度深い作。

井上雅幸 文字巾の変化が自然で、美しい流れあり。



加藤穆舟 楷書の筆法がしっかりと手に入っている。
 下平成苑 腕法が大きく、字形に求心力もあり。
 岡田凰吟 結体に緊張感があり、全体構成も見事。
 島村霞菖 背勢の美で、結体が引き締められた秀作。
 堀 都 緩急をつけた線質で、字の大きさも佳。
 大島翠暹 清みきった線質で、全体感も大佳。
 虎本溪風 豊潤な線で、切れ味のある作品となった。
 山崎憬泉 伸びやかでサラリと書けた明るい作。

△仮 名▽ 評 荻田 光山

テツ子 軽やかなタッチで、自然な風合いが出た。
 小 映 力味のない運筆がまとまりを生んだ作。
 壺 玉 行による強弱がうまく表現された佳作。
 美恵子 大胆で力強い筆緻で、大変印象的。
 美 光 無理のない筆運びと墨色の変化が効いた。
 谿 祥 やや小ぶりに見えるが、肉太の表現よし。
 小 琇 穂先の力がどの線にも感じられる秀作。
 寶 春 紙面全体を上手に使い、線質もふくよか。
 秀 峰 思いきり伸びやかに書かれた印象的な作。
 琴 水 連綿の中の一字一字がしっかりした一作。
 悠 翠 全体のとまりがよく、落ち着いた佳作。
 玄 穂 半紙練習の成果が力味なく感じられる作。

中二 北川 深雅 散歩	小二 柴田 滯 虫か	美那 小四 持2 莉子 小さな石	六年 弘美 軽快な曲	十二 佐生 琉音 太古の物語
小六 鈴木 紗英 台所	小二 山下 まり 虫か	小四 高木 要 小さな石	小六 千尋 軽快な曲	中二 栗野 慧 太古の物語
小四 中嶋 彩子 形	小一 平居 みなみ いぬ	小三 初菜 月がでる	小五 綾乃 広い水田	乙訓中一七段 永濱 和歩 実力を表す
二年 ながにし 千 千	小一 みる いぬ	小三 莉子 月がでる	小五 浜田 奈弥 広い水田	中 廣谷 真結子 実力を表す

学生部

評 成瀬 恵苑

佐生 琉音 行書のやわらかな表現が見事です。

栗野 慧 太い線で、力強く伸びやかに表現できた。

永濱 和歩 起筆がしっかりしており、線が美しい。

廣谷 真結子 むずかしい横画を明るく長く書けた作。

庄村 弘美 たて画を力強く、まっすぐに書けた。

小山 千尋 どの線も明るく、伸びやかで、さわやか。

望月 綾乃 伸ばす・はねる・止めるが上手に書けた。

浜田 奈弥 どの線も太く、しっかりした心地よい作。

小松 崎莉子 四字の大きさがとてもよく、すばらしい。

高木 要 紙いっぱい、うでがよく動いている作。

鹿島 初菜 すみをたっぷりつけて、大きく書けた。

前田 莉子 どうどうとしていて、名まえもりっぱ。

柴田 滯 ちからづよく、げんきいっぱい。

岩下 まゆ やさしく、はじめにかけたさくひんです。

平居 みなみ すみをたっぷりつけて、ちからづよい。

酒井 美空 あかるく、のびやかにかけました。

半紙 随意

評 長谷川 石心

北川 深雅 なめらかな運筆は錬成の成果。

鈴木 紗英 起筆、終筆の正確さがきわだつ。

中嶋 彩子 大きな手の動きが良い。名前もうまい。

中西 奏太 堂々としている。力強さはナンバーワン。

このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

		星判伯 鹿馬三級 児玉利恵			星判伯 美栄 津四 大橋明美
		星判伯 花達 かおる			星判伯 須坂 準五 美代子
		星判伯 文化 牛五段 弘美			星判伯 華雪 芥木 祐菜
		星判伯 若竹 一級 柄澤悦子			星判伯 竹華 七級 染谷教子
		星判伯 光 一丘 高橋裕子			星判伯 楳森 二級 湯田坂新吾

笠原	若竹	高風	玄樸	麗墨	富貴	書集	汀松	横二	高風	〔段位〕	〔假名〕	光丘	竹華	星心	玄墨	練馬	榉森	華雪	京都	八戸	横二	大阪	静高	美菜	虹友	皓花	文化	須坂	花連	有家	〔楷書〕
塩原	柄澤	谷川	西島	小柴	高橋	岡寄	森	齊藤	山田	〔段位〕	〔假名〕	高橋	染谷	田村	松本	児玉	湯田	齊木	中野	橋爪	金見	鈴木	鈴木	大橋	滝瀬	藤井	西川	木下	大森	武原	〔楷書〕
朝七	悦子	裕香	美香子	清子	澄美	順子	恵子	恵雪	真菜	〔段位〕	〔假名〕	裕子	教子	加代子	かおる	利恵	悦子	祐菜	恵	里和	瑞雪	清太	明美	響山	宏美	保弘	美代子	かおる	博	〔楷書〕	

六年 春日 利緒	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語	太古の 物語
浅月 六段 山下 典剛	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語	太古の 物語
桜木 小六 四段 はたる	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語	太古の 物語
杉小六 成瀬明 日花	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語
小六 與田 暁珠	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語
六年 細貝 詩音	軽快 な曲	実力を 表す	実力を 表す	実力を 表す	太古の 物語	太古の 物語

〔毛筆〕

〔中・三〕

須坂 松本那奈子

名東 蛭川 愛夕

新城 神林 桃子

虹苑 真壁 美乃

若竹 皆川 恵里佳

若松 田村 千怜

龍文 上野山 葵

大家 古川 蘭

土筆 南部 みのり

中野 田中 真奈美

書之 佐藤 優太

一絵 安藤 楓

船橋 出口 陽菜

中央 豊田 真夕

ひま 廣瀬 俊哉

〔中一〕

華雪 羽賀 瑛海

若松 川島 実佳

綾華 浜田 佳邑

上尾 北村 匠伍

名東 木下 千鶴

晴美 坂本 陽菜

小光 石橋 葵

茜 青木 暉繁

光丘 阿部 杏生

龍文 神長 弘行

中野 海野 真大

秀雪 井上 桃花

神奈 内野 晴果

大阪 前田 創

〔小六〕

湊 春日 莉緒

浅月 山下 典剛

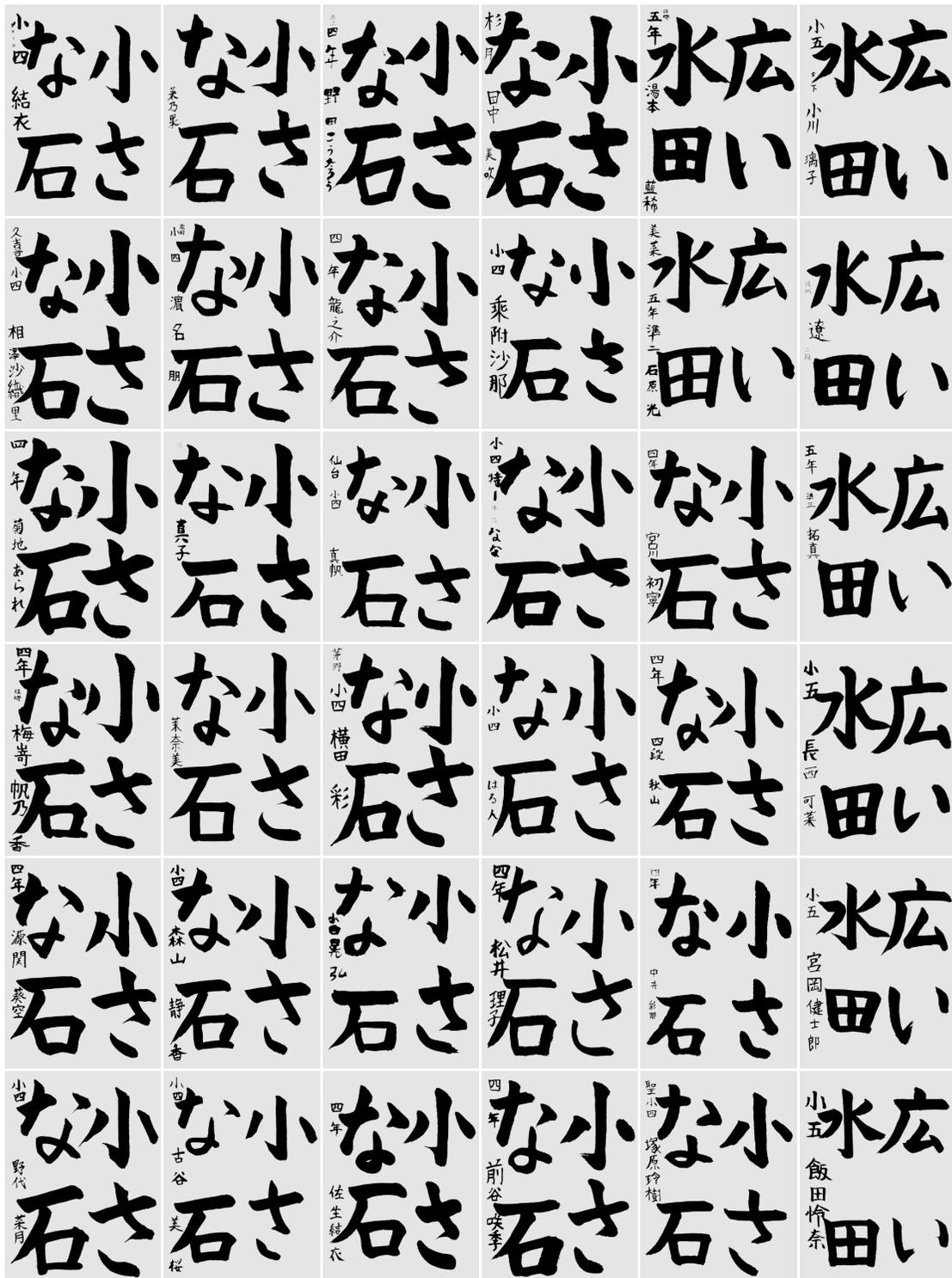
桜木 成瀬 明日花

杉 奥田 睦珠

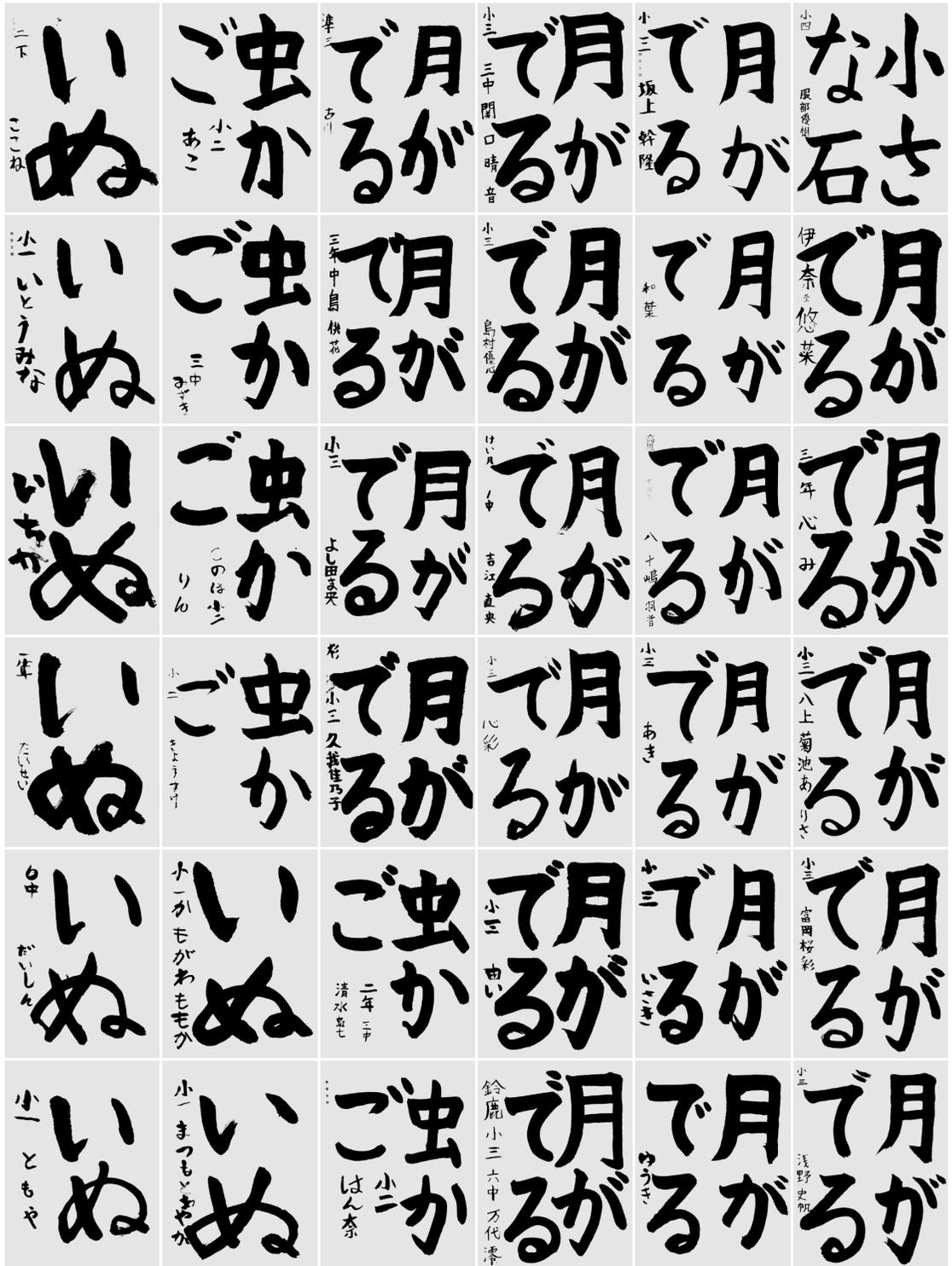
和曲 細貝 詩音

小五 増田 直奈 水広 田い	五年 俊月 水広 田い	小五 水広 田い	琉海 な軽 曲快	小六 松永 朱利 な軽 曲快	小六 希 な軽 曲快
小五 木田 哉太 水広 田い	小五 木角 春華 水広 田い	五年 品川 歩 水広 田い	小六 萩原 楓 な軽 曲快	な軽 曲快	六年 六段 岩村 芽依 な軽 曲快
小五 宮田 怜 水広 田い	小五 五十嵐 千尋 水広 田い	小五 浅井 唯 水広 田い	小六 朱音 な軽 曲快	小六 五段 眞田 楓歌 な軽 曲快	小六 高桑 彩希 な軽 曲快
小五 岡川 水葵 水広 田い	小五 大鹿 瑠子 水広 田い	小五 希望 小五 幸二 愛大 水広 田い	六年 宿谷 優花 な軽 曲快	高橋 な軽 曲快	小六 田中 舞 美 な軽 曲快
小五 兼依 水広 田い	小五 眺生 水広 田い	小五 明恵 水広 田い	小六 武藤 結香 な軽 曲快	李光 全 珍菜 な軽 曲快	六年 三島 千奈 な軽 曲快
五年 中山 七星 水広 田い	小五 佐藤 浄之 水広 田い	四中 花 水広 田い	小六 落合 里名 な軽 曲快	小六 中島 沙弥 な軽 曲快	小六 辻藤 涼太 な軽 曲快

三池 凜心 若宮 照澤 硯扇 高社 北府 光丘 瑞祥 有象 虹苑 峰 石峯 みな 希望 竹華 硯 雅 【小五】 名東 華雪 硯 凜心 長寿 松戸 若葉 李光 高風 内藤 芙二 飯山 御代 大田 八潮 霞墨 皓花 一葉
 中山 中田 絹川 宮田 本田 増田 佐藤 深野 大鹿 五十嵐 角 高橋 桐原 木村 向田 浅井 品川 伊藤 小五 落合 武藤 宿谷 圓道 萩原 野山 中島 本多 吉川 茂田 眞田 松永 近藤 三島 千奈 舞美 彩希 岩村 芽依 高崎
 七星 舞依 水葵 哉太 真奈 浄之 眺生 瑠子 春華 優月 明恵 愛美 唯 歩 里名 結香 優花 朱音 楓 琉海 沙弥 玲央 真央 颯哉 風恋 朱莉 涼太



優生 平成 往郷 富貴 久喜 華雪 たけ 秀雪 月 珠紅 北府 玄樸 好野 玄嶽 茅野 仙台 山愛 書之 玄黙 正桂 汀楓 珠悠 柏心 杉月 聖 源創 朝日 湊 美菜 往郷 有虹 富士 霞墨 東陽 成城 曉華
 野代 源閑 梅壽帆乃香 菊地あられ 相澤沙織里 原口 結衣 古谷 美桜 森山 静香 坂本菜奈美 山本 真子 濱名 朋 北川菜乃果 佐生 結衣 桶川 晃弘 今野 真帆 近正龍之介 野田耕太郎 前谷 咲季 松井 理子 仲山 遙人 三村 奈々 乘附 沙那 田中 美吹 塚原 玲樹 中井 彩耶 秋山 華蓮 宮川 初寧 石原 藍稀 湯本 光 飯田 怜奈 宮岡健士郎 長西 可菜 野本 拓真 宮本 遼 小川 璃子



有穂	墨洋	山愛	花蓮	華雪	秀雪	霞墨	【小一】	前原	この	英二	光丘	華雪	【小二】	杉	霞墨	大田	英二	鈴鹿	みな	秀雪	静月	葉月	若松	水代	光丘	高風	玄樸	華雪	練馬	玄黙	山愛	伊奈	竹華
奥出	青木	田村	海野	伊藤	安西	松本	加茂川	島崎	高橋	片倉	滝田	篠田	清水	久我	吉田	中島	古川	万代	浅野	古賀	吉江	島村	関口	美多	倉科	小林	八十嶋	土井	坂上	富岡	菊池	山田	服部
鵬仙	乃信	大成	一華	咲南	心音	彩花	桃花	恭輔	凛	瑞希	葵心	絆奈	虹七	乃子	麻央	桃花	太郎	澤	由衣	心彩	直央	優心	晴音	優希	杏紀	和葉	幹隆	史帆	桜彩	心美	悠菜	優樹	

別便で粗末をお送りしました。
私どもの心をよりけお祝いのさうし
てすより急ぎお祝いを。 小中 中平

美術館に行こう。本物に出会う喜
びを感じながら、自分の感性を磨
き多くの発見をしよう。 中三
西澤 俊

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 中央 六三四
小林 牛鬼

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 大東 六三四
石原 菜花

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 高 三三四
山本 瑞季

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 高 三三四
谷崎 清香

あきの田んぼは、
虫たちのコンサー
トホール。
小田 彩奈

別便で粗末をお送りしました。
私どもの心をよりけお祝いのさうし
てすより急ぎお祝いを。 五段 中三
北村 綺咲

美術館に行こう。本物に出会う喜
びを感じながら、自分の感性を磨
き多くの発見をしよう。 中五
北村 綺咲

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 月五 三三四
神崎 まどか

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 名東 六三四
山本 瑞季

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 高 三三四
山本 瑞季

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 有 三三四
新田 春花

あきの田んぼは、
虫たちのコンサー
トホール。
小田 彩奈

山のあなただの空速く幸住むと人
の心あわれれいとめ行きて
決まぐみかへり来ぬ まゆみ

美術館に行こう。本物に出会う喜
びを感じながら、自分の感性を磨
き多くの発見をしよう。 愛 中一五段
紗弥

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 高 三三四
大矢 優奈

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 美 三三四
監物 花香

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 高 三三四
大が けい

あきの田んぼは、
虫たちのコンサー
トホール。
大が けい

あきの田んぼは、
虫たちのコンサー
トホール。
大が けい

美術館に行こう。本物に出会う喜
びを感じながら、自分の感性を磨
き多くの発見をしよう。 高 三三四
大森 祐奈

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 高 三三四
山口 花音

大切な命を守るため気持ち
を引きしめて防災訓練に取
り組みましょう。 高 三三四
山口 花音

高原の朝はもう空気がつ
めたい。赤とんぼがとび秋
をつけている。 高 三三四
飯島 志奈

〔硬筆〕

〔一般〕

- 高社 月中央 雅 小五・六 愛心 若宮 妻科 凛心 長野 若宮 小平 布施 佐藤 油科まゆみ 大森 祐奈 西澤 優 北村 綺咲 岩田 紗弥 山口 花音 小林 千晃 神崎まどか 大矢 優奈

〔中学〕

- 大森 祐奈 西澤 優 北村 綺咲 岩田 紗弥

〔小一・二〕

- 山口 花音 小林 千晃 神崎まどか

〔小三・四〕

- 玄樸 野澤 瑠衣 大象 石原 菜花 名東 雪本 彩乃 美菜 監物 花香 玄黙 飯島 杏奈 この 豊澤 葵 倭 山本 瑞季 有象 大塚 柊季 華雪 谷崎 清香 有穂 新田 春花 大原 実花 皓花 小田 彩葉 仙台 佐藤 瑚珀

Table with multiple rows of text containing names, numbers, and symbols (circles, stars, squares) representing a complex schedule or ranking system. The text is organized into columns and rows, with various symbols indicating different levels or categories.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

珠紅・珠悠・春風・小光・城彩・松聲・知床・新城・瑞祥・梨・須坂・鈴鹿・硯・青雲・正桂・成城・靜翠・石峯・仙台・蒼穹・大家会・たけのこ・竹華・千曲・茅野・中央・長寿原・月・土筆・下楓

Table with 10 columns and 15 rows of Japanese text. Each row contains a sequence of characters (numbers, hiragana, katakana) and symbols (circles, squares, stars) representing a specific data set or ranking. The text is dense and follows a consistent pattern across rows.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇級する。ただし師範部は除く。)

Table of musical scores with columns for piece names (e.g., 準七四準六七, 準二四準三), composers (e.g., 中野, 東陽, 照澤), and performers (e.g., 海川田徳小田畑竹古金吉豊). The table is organized into multiple rows and columns, with some cells containing musical notation like '準二四準三' or '準七四準六七'.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

5準	二三準	初四五	特	43七	8	86	65	8611113	特準	33	四六準	準四	準	六四特	準準	三六準	七	準	特	特	4
中若	七	段段	四六段	段段	待	若	級級	段下	中中	上上	中下	中上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	中
原支	北	佐田	絹齋	中平	北齋	毛	伊高	村谷	横渡	青恩	藤伊	望高	安岩	美齋	横三	青上	本若	小山	小村	安小	東小
優部	村	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤
稀	綺	莉	石	水	あ	健	佐	真	綺	航	悠	奏	智	貴	陽	由	詩	美	桜	悠	連
66	75	43	3特	準初	準	5521	特準	準準	準	85432	特特	準四準	2特準	準準	準六	七準	準	四六	準	準	特
下中	中中	小上	上中	下中	中1	初段	二小	中上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上
岩八	田安	開三	竹飯	曾	谷園	兼	鴨	兼	寺	鴨	井	福	大	四	渡	八	小	長	濱	奥	加
井木	山岡	咲	原島	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
颯	祐	智	優	俊	健	沙	成	喜	友	心	大	連	有	菜	高	陽	惠	瑞	芽	心	陽
大	栗	橋	子	璃	美	心	智	貴	陽	由	詩	美	桜	悠	連	美	悠	連	美	悠	連
8	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
岩八	田安	開三	竹飯	曾	谷園	兼	鴨	兼	寺	鴨	井	福	大	四	渡	八	小	長	濱	奥	加
井木	山岡	咲	原島	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
颯	祐	智	優	俊	健	沙	成	喜	友	心	大	連	有	菜	高	陽	惠	瑞	芽	心	陽
大	栗	橋	子	璃	美	心	智	貴	陽	由	詩	美	桜	悠	連	美	悠	連	美	悠	連
5	特	初準	準	初	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準	準
級	段	二	小	段	二	小	級	一	初	二	段	七	小	段	二	段	三	段	七	段	八
曾	竹	飯	園	園	鴨	大	福	兼	四	八	長	濱	加	仲	西	齋	松	山	西	新	六
根	原	島	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
成	健	沙	友	心	大	連	有	菜	高	陽	惠	瑞	芽	心	陽	大	有	慶	花	花	花
大	栗	橋	子	璃	美	心	智	貴	陽	由	詩	美	桜	悠	連	美	悠	連	美	悠	連

注意・出品券には、最新の段級位を正確に記載してください。

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第33回 成田山全国競書大会

青少年に心の安らぎを与え、豊かな情操を養うことを願い



作品募集期間／平成29年 1月25日～31日

主催：成田山全国競書大会実行委員会
後援：中国書法家協会／中国大使館／読売新聞社

お問合せ 成田山全国競書大会実行委員会事務総局
TEL 0476-24-2017 (直通) FAX 0476-24-2084

ホームページ <http://www.naritasan-kyosho.jp>

書き初め講習会のお知らせ

学生（小学生・中学生・高校生）のための書初講習会です。今年で六年目になります。地域での様々な書初展や学校の宿題等の課題を中心にを行います。ふるってご参加ください。

日時 平成二十八年十一月二十六日(土) 午後二時～五時三十分

受付・準備 十三時三十分～十四時

講習会 十四時～十五時三十分

講師 松本市美術館 寺尾碩雲先生

持ち物 竹内墨洋先生 書道用具一式（それぞれの課題に沿った紙と筆）



書象会 便り

第69回長野県書道展覧会入賞者（本会関係）

- (特選) 関澤湖山
- (秀作) 畔上肖栄
- (褒状) 下平成苑
- (審査員) 藤牧峰雪
- (審査員) 藤川成仁
- (審査員) 笠原泰山
- (審査員) 竹内墨洋
- (審査員) 窪田溪苑
- (審査員) 渡辺泰琴
- (審査員) 永島恵光
- (審査員) 古川瑠光
- (審査員) 成沢臨舟
- (審査員) 虎井曉鐘
- (審査員) 野口節風
- (審査員) 三沢泰仙
- (審査員) 金井鐘華
- (審査員) 原山翠光
- (審査員) 塩川冠泉
- (審査員) 野口節風
- (審査員) 三沢泰仙
- (審査員) 金井鐘華
- (審査員) 原山翠光

〈書展予告〉

- ☆第12回瑞祥書展
会期 10月12日(水)～16日(日)
会場 名古屋市博物館市民ギャラリー(三階 第一室)
- 主 宰 日比野汀華先生
- ☆第10回小光会学生展
会期 10月22日(土)～23日(日)
会場 向陽ギャラリー(国立市中向陽ビル3階)
- 主 宰 松本小光
- ☆第66回杉並区総合文化祭美術作品展
会期 10月22日(土)～26日(水)
会場 センオン杉並
- 出品者 杉山曉雲 杉山窓影 牧野蘭亭 (本会関係)
- ☆大東文化大学書道卒業生の会書展
会期 十一月十四日(月)～二十日(日)
会場 東京銀座画廊美術館七階
- 出品者 小室節江 結城正憲 田中蘭山 結城正憲 芦川臨泉 洪江皎雲 竹内藍山 藤森大節 吉田節城 (本会関係)

昇段級試験 要項

師範昇格試験 要項

特待生試験

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。ふるって力作を御出品ください。

昇段級試験 出品規定

- 小・中学生 十一月号の毛筆規定
- 一般 十一月号の硬筆規定

- 十一月号の漢字条幅規定
- 十一月号の隸書条幅規定
- 十一月号の楷書臨書規定
- 十一月号の行書臨書規定
- 十一月号のかな規定
- 十一月号の硬筆規定

出品料

- 小学生 一点につき 五〇〇円
- 中学生 一点につき 五〇〇円
- 一般 一点につき 一〇〇〇円

特待生試験 出品資格

- 小・中学生で現在準八段の者
- 小・中学生は昇段級試験と同じ (級位用)

出品料

- 小学生 一点につき 五〇〇円
- 中学生 一点につき 五〇〇円

師範昇格試験

出品資格 準師範試験 一般部で準五段・五段の者

出品規定 師範試験 準師範の者

出品料 昇段級試験の一般部規定と同じ 一体につき

☆準師範試験 四〇〇〇円

☆師範試験 五〇〇〇円

出品の手続き

- 1 支部及び個人宛に要項、出品目録、師範・準師範・特待生試験受験名簿、申請書を送ります。
 - 2 師範・準師範・特待生試験受験者は名簿に必要事項を記入し、作品にバーコード出品券を必ず貼付の上、共に提出すること。
 - 3 返信封筒は不要となりました。
 - 4 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ申請書に記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。
 - 5 個人で認定証を申込み時は返信切手一四〇〇円を同封し、返信用封筒は不要。
 - 6 師範の認定証は二月号発表後に申し込む。
- 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。
- 出品料が千円以下の場合も切手でも結構です。

締切日 十一月二十一日(月) (厳守願います)

発表

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。

師範試験及び特待生試験の合格者は二月号誌上に発表の予定。

出品先 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六 上條方 書象会 竹内藍山あて

平成二十八年年度 実技講習会 「信山流の技法(半切・条幅編)」

平成二十八年年度の実技講習会を左記のとおり開催いたします。今回の実技講習会は上條信山先生の書表現である「信山流」について、半切・条幅の制作を中心に実技講習を企画いたします。お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 十一月二十三日(水・祝) 十三時三十分～十六時三十分 受付 十三時より

◆講師 書象会副理事長 中村巍山先生

◆内容(予定)

- 一 信山流の半切・条幅の表現について (講義)
 - 二 信山流の半切・条幅作品の制作 (実技)
- 信山流の基本技法を用い、半切・条幅の制作を行います。
- 講義および実技の資料は会場で配布いたします。

◆持参用具

- 書道用具一式
- 筆 大筆 小筆
 - 墨 固形墨・墨汁
 - 硯 普段お使いの硯(墨池より硯がのぞましい)
 - 紙 半切
 - 下敷き・文鎮・水差し・新聞紙(二枚)
 - 筆記用具
- 武蔵野公会堂 三千円 三十名

◆申込み 書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422 (53) 9743 書象会研修部

発行人 (有) 書象

代表 上 條 節 夫

〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六

郵便番号 180-0001 電話 〇四二(五三)九七四三

振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一

振替名義 (有) 書象

印刷所 株式会社 リンクス

氏名